

【麻績村】 校務DX計画

2025年3月

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	※留意事項
共通項目	FAX・押印の原則廃止に取り組んだ学校の割合	0%	100%				<ul style="list-style-type: none"> クラウドツールの未活用やFAXでのやり取り・押印の見直し、不合理な手入力作業の一扫については、校務の効率化・ペーパーレス化の大きな阻害要因になっているものであることに十分留意すること。
	不合理な手入力作業の一扫に取り組んだ学校の割合	0%	100%				
	クラウド環境を活用した校務DXの徹底に取り組んだ学校の割合	0%	100%				
選択項目	3.学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信している学校の割合	100%					<ul style="list-style-type: none"> 自治体として力を入れたい内容をリストから選択する。 選択肢はGIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリストの34項目より作成。自己点検の結果等を踏まえつつ、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題を選択する。
	9.1人1台端末を児童生徒に持ち帰らせ、家庭で利用できるようにしている学校の割合	100%					
	16.職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化している学校の割合	100%					
課題と解決策の具体	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題	<ul style="list-style-type: none"> 教職員間でのICT知識の差が学年間等で格差が生じる可能性 小中学校間でのICT教育への取り組み状況の差が生じる可能性 					
	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題の解決策	<ul style="list-style-type: none"> 学校ICT教育支援として、学校訪問を行い教職員らの質問や取り組みに対する支援を業者に委託し、学校間の意識の共有を図り、教職員間の格差解消を行う。 					
	校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討の計画	<ul style="list-style-type: none"> 現行使用しているメール送信システムや校務支援システム活用して学校保護者間の連絡体制がなされている。 校務についてはメール等を活用しての収受を基本とし、極力FAXの使用を制限する。職員会等の資料も校務支援システムやGoogle等を活用し、ペーパーレスに取り組む、会議の効率化により教職員の働き方改革につなげていくものとする。 					